



●**県立胆沢病院**
胆江医療圏の中核病院。他の病院と連携しながら、救急医療や高度専門医療を担っている。
(☎ 4121)

平成20年10月 から県立胆沢病院では一部診療科の初診時に「紹介状」が必要になっています。

ここ数年、医師不足による地域医療の問題がテレビや新聞などで取り上げられるようになり、全国的には、地域の中核病院が医師不足で閉院するという事態も起きています。この中で、わたしたちが住む胆江地区の中核的な医療を担っている県立胆沢病院は、昨年10月から、一部の診療科を初めて受診する際に、ほかの医療機関からの紹介状が必要になりました。これはどのような経緯からなのでしょう。松本胆沢病院長、井内奥州市健康福祉部長に聞きました。

●市健康福祉部長に聞く「奥州市の医師不足の状況」



市健康福祉部
部長 **井内 努 氏**
Profile
昭和44年大阪府堺市生まれ。大阪市立大医学部卒。同大学付属病院などで医師として勤務。平成13年に厚生労働省入省。20年4月から現職。

近年、医師不足が大きな問題となつていまます。医師不足の原因はさまざまですが、奥州市内の公立病院からも医師は減少してきており、5年前の常勤医師数(研修医除く)と比較すると、合計で22人が減少しています(左下表参照)。

このような状況で最も懸念されることは、病院に残って頑張っている医師が、過酷な勤務を余儀なくされてしまうことです。一生懸命働いている医師が燃え尽きてしまい、結局、退職を選択せざるを得なくなる悪循環によって、病院が立ち行かなくなるといった問題が起きている地域もあります。

本市がこのような状況に陥ることは、何としても避けなければなりません。特に、この胆江地域の中核病院である県立胆沢病院は、救急医療や

手術などの急性期医療の大部分を担っており、地域の安心・安全の医療を確保するためには、県立胆沢病院が提供している医療機能を維持していくことが重要と考えております。

本市としても、医大生への奨学資金貸付を実施し、将来胆江地域の公立病院で勤務していただく医師の養成を図るなど、医師確保の努力を引き続き行い、今後も、奥州市において必要な医療の提供ができるよう、体制維持の努力を続けてまいります。

市民の皆さま方にも、今般はご不便をおかけすることになります。県立胆沢病院の新たな診療体制にご協力いただきたくお願い申し上げます。

●胆沢病院長に聞く「胆沢病院の現状」



県立胆沢病院
院長 **松本 登 氏**
Profile
昭和24年山形県生まれ。東北大医学部卒。県立磐井病院などを経て、平成17年から県立胆沢病院長に。専門は呼吸器内科。

5年前、当院には55人の常勤医師(研修医除く)がいました。しかし、内科をはじめ、小児科、産婦人科、眼科などの医師15人ほどが転勤や退職した後の補充がなく、現在は40人の常勤医師で診療を行っています。

この5年間、奥州市長や病院OBの方々とも協力しながら、あらゆる方法で医師確保を続けておりますが、残念ながら非常に困難な状況です。

一方その間、当院への救急患者や入院患者はさほど減っていませんが(右下グラフ参照)、常勤医師数の減少で残された医師への負担が年々増えてきており、これが大きな問題となっております(最近のデータでは、当院の医師の超過勤務は月80時間以上が11人、100時間以上も5人おりました)。

医師不足が、あと何年か続くことを覚悟しなくてはいいけないとすると、今までのやり方では当院の医師が疲弊し、今後この地域に必要な医療を提供できなくなる恐れがあります。

このような状況から、当院の診療科の一部(整形外科、外科、呼吸器外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科)において、「初診患者の紹介制」を昨年10月から導入しています。

これらの診療科を初めて受診する際は、ほかの医療機関からの紹介状が必要となります。住民の皆さまにも当院の状況をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

「地域の安心・安全の医療を確保するためには
県立胆沢病院の医療機能の維持が重要」

「医師不足で中核病院としての機能維持が困難に。
外来での紹介状制度にご理解を」

■市内公立病院常勤医師数の推移

病院名	H 16	H 20	増減
県立胆沢病院	55	40	▲ 15
県立江刺病院	10	8	▲ 2
総合水沢病院	21	16	▲ 5
まごころ病院	9	9	0
合計	95	73	▲ 22

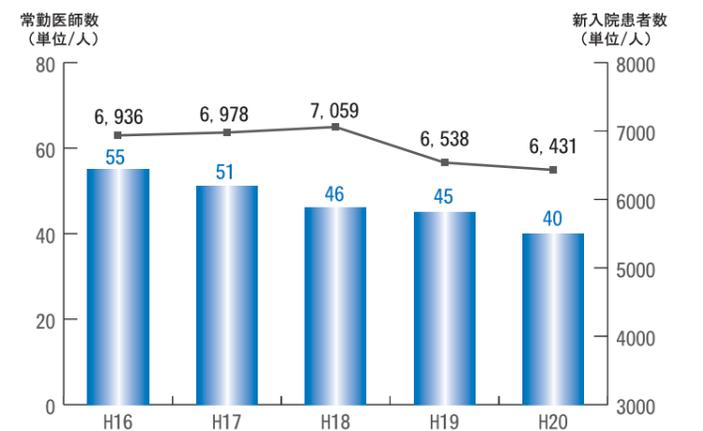
※医師数は研修医を除く



■胆沢病院で初診時に紹介状(診療情報提供書)が必要となる診療科

- ・整形外科
- ・外科
- ・呼吸器外科
- ・泌尿器科
- ・眼科
- ・耳鼻咽喉科
- ・麻酔科

■胆沢病院医師数と新入院患者数の推移



※医師数は研修医を除く